

ま な こ

福祉活動専門員

福岡県専門員連絡会

まなこ編集委員会

印刷 福岡コロニー

この「まなこ」とか「なまこ」とかいう機関紙は、福岡県内の専門員諸兄の奮闘努力ぶりをいろいろ御紹介下さって大変勉強になりますし、編集にあたられる方々の御苦勞に敬意を表しております。

ところで、直方の活動状況については、とくに書くこともなく、又、いずれうちの広報紙を御覧になる機会もありません、その時に、眼(まなこ)をおしていただければよいので、今回は私が社協という、この場合、職場に勤務して、例えば机について夢想したり、この眼(め)で見たりしていることを、つれづれに書いてみたいと思います。

直方に通い始めて10ヶ月しか経っていません、いや、私にとっては10ヶ月も経ったという方が我が意を得た感じです。というのも、私の社協勤務が決まった時、周囲の叔等(まなこの読者諸兄)にとっては下卑た言葉でしょうが)は、口をそろえて「あなたにや、勤まるまいばい」などと嘲弄しておりました。まあ、言われてみると私も思い当ること多く、ニヤリと斜め80度横に首を回転させたものです。

とにかく、その私をここまで引っぱってくれたものは、専門員仲間(筑豊の先輩諸氏)のあたたかい力添えであつたし、女房の「あなたを大切にして下さいよ(ヒネた私には「生活がかかっていますからね」と聞える)という声援又は声演と、「へエあなた福祉のお仕事しているの」という尊敬とも軽蔑ともつかない眷族の眼(まなこ)

によってであるような気がします。

私はガキ、いや幼少の頃から身体が弱く、今も一倍感をかけたままですが、出勤した日は、真面目に働いているつもりで、仕事に対しても、県社協の指導方針と現場とはかなり距離があつて、とても実行できるような状態ではないこと、どこにもある人間のつなりのひびわれが、あたりまえにあること、貯金するためでなく、生活するためにもう少し金が必要なことを除いては、とても楽しく感じています。それで最後に、今後お会いした時の話のネタに困らないために私自身の性癖とい



直方市協 高石

まずか思考癖について軽口をたたいておきます。

引きあいに出しますのは、昭和49年度国民たすけあい共同募金運動要綱の「趣旨」についてであります。

まず、「だれもがひとしく人間として尊重され、生きる喜びに満ち溢れることは人類社会共有の理想」であり、「この理想めざして人びとが心と心をつなぐ……民間の福祉活動を展開する旺盛な国民的意欲が基礎になつてこそ……すぐれた社会保障制度が築かれてゆく……云々」とありますが、

自由・平等の理想社会実現のために民

間の福祉活動を展開するのだそうです。何と楽観的で、人を莫迦にした論理でありましょう。国家が暴力装置であり、国家が在るかぎり人間の支配・被支配の関係がなくならないということぐらい政治学のABCですのに、腹をたてると身体に悪いので簡単に述べます。

「わが国伝統のたすけあい精神を現代的意義において高揚しつつ」とありますが私はこの文章を読んで背中がゾツとしました。まず頭に浮かんだのは「一億総ざんげ」つまり、えらいさん(権力をもった人)も私達もゴチャ混ぜにされて責任をなしくずしにしてしまふやり方一です。

現在の教育体制に象徴されるように選別・差別の仕組みは、極度に人間を疎外し、その延長線上に、企業におけるエリート社員と低賃金労働者とのふりわけがあります。

現代の若者の無気力を叱る企業の管理者にひとこと申しあげたい。コンペヤシステムの部品と化した若者がもし気力に満ちていたらこれこそ大変なですよ。そこで、来年からは「国民たすけあい税金不払い運動」とか「国民たすけあい危険食品壊滅運動」とかやったらどうでしょう。そうすればこの「共同募金」の現代的意義が明確化されると思います。つまり、社協の身のふり方の問題です。



十月における

社協活動の実際

一 社会福祉基本調査

九月下旬、部落長会に対し、調査の目的・方法・配布回収等を説明、十月一日から十日間に実施するため金世帯三七七枚配布、十八日現在五二%で残余はなお回収中である。

※調査項目

- 1 家族の健康状態
 - 2 くらし向き
 - 3 家庭内のなやみや心配ごと
 - 4 家庭奉仕員の要不要
 - 5 社協事業の認識度
 - 6 近隣の福祉問題
 - 7 社会奉仕活動の意識
- 以上である。十月中旬に回収したが、回収率が約半数であるので、有線放送や部落長への再依頼状の送付等手に尽している。しかし、農繁期で忙しくて書けないのか、無関心であるのか、おもわしくない。その上、回収にいく車もない。また、いっても留守が多い。集計は事務局二人で当たっているが、私は忙しくてほとんど一人でやっているので手不足である。いろいろ悪い条件が重なっているが、十二月には報告できるよう努力している。

二 共同募金活動開始

本町では部落別の募金は一世帯百円目安で、四十万円が目標とされている。

しかし、社協は理事さんと私とで八十万円を目標に募金活動を開始した。本年は、昨年七十五万円に対し五万円増であるが、インフレと不景気、資金凍結等で深刻な業者の訴えの中で、なかなか募金も思うにまかせない。しかし、各世帯配布のチラシを法人の会社にも、持っていく、昨年の状況と使用の具体的な実状を示して、ご了解を得るようにしている。こうすると、割合に気持ちよく提出していただけるようである。大体、昨年並みが多いが少類のところは増額してくださる法人がめだつて多い。パッシ募金も役場、学校、農協、保育所、幼稚園等の職員の協力で予想以上に伸びている。しかし、この活動の機動力である車を役場に依頼し、あいている時にお借り出来る位で、あとは、足でかせぐ外はなく、多い時は三時間位歩いている。黄金の稲波さわぐ農村とはいえ広範囲で、楽ではな

三 法人認可を待っている

本年四月末、県社会課(福祉事務所経田)へ書類を提出したが途中、さしかえもあって六月頃厚生省へまわされた様子。まだ認可はないが、こうした

老人農園について

昭和四十五年から行われている休耕田管理対策事業の一環として県知事の発案による老人農園が、四十七年六月試験的な事業として、県下十二ヶ所の希望町村に設置されることになりました。

趣旨は老人が土に親しみ、健康で明るく、長生きされるよう、県費三十万一千円を補助し、市町村費をその二分の一以上を追加して本事業を開設することになりました。

事業主体は市町村で、事業実施者は老人クラブであります。技術面その他については農業改良普及所の技術職員及び4Hクラブ員等で指導お世話をするようになっていきます。

本町では、本事業を四十八年十月から開始しています。

- ◎四十八年度
- (1) 農園面積 28アール

動きに併せて職員の身分保証や給与体系も明らかにしたいと考えている。ぜひ、この物価狂乱の折、町職員との格差は大きく町職員並みを目標にしたい。

また、予算の不足は仕事にも支障をきたす状態であり、十二月議会前に大町の予算を要求できるよう準備したい。幸に、町長および議会の理解の深いことは全く有難いことである。

(那珂川町社協 吉浦)

(2) 栽培種類

- ・花類 チューリップ・アイリス
- 金せん花・金魚草・矢車草
- ・野菜 玉葱・馬れい薯

(3) 管理

植付後に除草剤撒布、灌水
除草等五・六日作業

- (4) 四十九年四月十二日には満開の花見会を催した。
- (5) 切花はわたたり老人、一人くらし老人等に見舞した。
- (6) 玉葱及び馬れい薯は会員や一般町民に売り、又現品65kgは瀬高町老人ホーム植寿園に見舞した。又売上げ代金はクラブ活動費にあてている。

◎四十九年度
八月一日から大和町老人憩いの家が
大和干拓にオープンしました
関係で、老人農園がそこに移動しました。今年は栽培面積は少々縮小しましたが年を追って広げる予定です。



農園吟 原田甲汀

久瀨を叙す唯彼や耕せり
手なれたる鍬のさばきや春の苗
畦焼きのところどころに薊の座
火葬場は朽ちしままなり烏瓜
鈴なりのせん檀の実は陽を吸えり

「曲り角にきている共同募金」

醸金者の新しい意識と行動を

「おねがいします」 「めぐまれない人たちのために、ご協力を」：共同募金といえ、すぐ脳裏にうかぶことばでしょう。

しかし、一年一年募金に対する批判の声は高まり、募金の方法についての意見も少なくありません。

◆醸金者の新しい意識

共同募金運動の主体性は、市民全体になければなりません。そこで、世話をとめる共同募金会では、この運動の企画をたてるのにあたって、市民全体の意識の動向をつかむのが、まずなによりも大切なことです。共同募金の意義は、ただ金さえ集まればよいというのではなく、その過程で、市民の社会福祉に対する関心と理解をたかめ、福祉どころを「をつちかうところにあるといわれます。



◆民間性の認識を

共同募金を知らない人は、まずありません。

しかし、募金の実施には苦勞が多いのは事実でしょう。その原因の一つは共同募金は民間の社会福祉事業のために行われ、それだけに使われるという基本原則を知らない人が多いことでしょう。当面の課題として、こういう根本的な認識を明らかにしていくことが先決問題です。そこで、春日市社協では、本年は社協の車三台（幸号・螢光号（心身障害車見用）・内職センター車）に、写真のように市民への呼びかけを設けて、まい日市内を走らせています。

◆身近かな働きを

民間の社会福祉事業を、地域住民がおたがいに、自分たち自身のものとして考える……そこに共同募金の基本があると理論的にはいわれていますが、実際とのへだたりはまだまだかなり遠いようです。そこで、本市社協では、本年は共同募金受配施設見学会を九月二十三日から八回、全地区の地区世話人、民生委員、婦人会役員、保護司、その他ボランティア二一六名によって実施し、共同募金会への認識を、身近かな働きとしてたしかなものとしてもらったのです。共同募金会そ

昭和四十八年度の社協活動の基礎調査として、「何か適当な調査をせよ」との指令を受け、引き受けはしたものの、さてはどんなことをアンケートとして出題するか悩んだ。又調査対象者をどこに持って行くか、折角問題を作り印刷にかけ配布しても、その回収率がどうなるか。これを回収するには四三名ものボランティアが必要である。何故なら四三の部落がある。この部落の誰かにお願しなければならぬ。この人達と事前に提出問題を審議し諒解を受け、協力をお願いしなければならぬが、全員召集することは至難の事である。他町村も農家の現金収入に対する意欲の強さは同じだろうが、朝倉町は特に強い感がある。こうした実態の中で、社会福祉調査活動

二 調査結果を省みて

のものも、市民自身のサービス機関として、もっと知られ、親しまれるようになりたいものです。

◆たすけあい精神を強調

曲り角にきた共同募金を前進させるには、醸金者の新しい意識の上に立つて、行動をとおしてたすけあい精神を強調し、共同募金は民間福祉運動であることを認識してもらうことだと信じます。

(春日市社協 森山)

を行なうことは、非難と苦情的となることは必定である。

そこで目をつけたのが婦人会活動である。幸いわが町の婦人会活動は活発で組織的によく整備され、会長の許に各支部長がガッツリスクラムを組んでいる。又、毎月中央学級が開かれ全支部長が公民館に集り研修会を開いている。これなら配布も簡単、回収も容易だろうと、又、幸い年度初めに婦人の生活と意識の実態調査をやるという計画がたてられていたので、これをテーマに問題を考えアンケートの配布回収を依頼した。果して、その結果は八九%の回収率を得た。だが社協活動のニードとしては、あまり参考となる点が見出せないのが残念だった。

ここで考えさせられるのが、県下一問題で問いかけて、その結果を持ち寄り、検討するのは好資料となると思う。それは「あなたには機会があれば何か社会のため奉仕をしたかと思いませんか」との問だった。こうした同一設問であるところと農村同志、都市と農村地域との格差等が出て来て住民の意識、生活環境等を伺い知ることが出来る。

朝倉町の場合、婦人各自の自己反省の資料として、又、社協の存在価値認識には役立つと思うが、社協専門員としては、この資料を基にしてこれを大いに社協活動の上に如何に活かすべきかが大切で、回答者に対する感謝であることを痛感している。

(朝倉町社協 田辺)

福祉とは多くの人々の幸福とある。即ち社会福祉は共同生活を営む人間の集団がすべて幸福に過ごせることでなければならぬ。

このことを文字のもつ意味と解するか、または語源に沿って受け入れ認識するかは個々の判断にまつとしても社会事業的発想であつてはならない。なぜなら字句のもつ意味で、社会的に不幸な人々をすくおうとする特殊な事業に連がる……からである。近時、福祉関係者間において『救済的』なものからの脱皮が叫ばれていることに逆行するからである。

現代の社会生活は高度化し快適になった反面、複雑化し、緊張と不安感が増大しています。福祉が本来求めたものは、社会のなかで又は集団のなかで人と人とが互いに『示』の社(やしろ)を中心に幸福の追究を計りながら、お互いの生活を楽しく過すことであつたはずである。

現在は、多様化された関係で色々な問題が提起され、そして要求される時代となりました。このため地域の実状を把握しながら、その問題点の改善を進めなければなりません。既成の福祉ではなく地域が要求する福祉をたっふりと!!

私か社協の新1年生として今後の社会福祉を考えると、これまでの太宰府社協の実績と、今年度の事業計画、役員会において協議される諸問題を事務処理していく課程のなかで基本的考え方の一つとして字句のもつ意義を踏まえながら、職務を果すよう努力したい。(太宰府町社協 河島)

法人社協発足後、1ヶ月おくれの新参者として働き始めた。このごろは、社協の空気にも慣れてきたが、種々雑多な仕事の多い事にはおどろかさされる。よくぞ、法人前は役場職員の方がやっていたと思う。社協の仕事に熱情もってとりくんでいく程に、研修会で指導を受けたような専門の仕事とは程遠い現実にはぶち当たっているのが本音である。しかし、このことについては、民生課の係長さん——社協の理解者であり育ての親である——彼に卒先して、社協の発展のため尽力をつくしてもらっている。幸い予算がつけば専任職員の採用も出来そうなふん屈気である。そうすれば、専門員としての機軸が現在よりは発揮でき、地域の生活福祉問題にもとりくめようである。

今は、民間活動として、住民と一体となった住みよい福祉の町づくりに専念したいと心するばかりであるが、幸い今年の共同募金を足かかりとして、住民の自主性、共同性を尊重しつつ、身近な問題に取りくんていきたいと思つている。現在の私は、こうした地ならしと将来に向けての事務簡素化の基礎づくりを当面の課題としてレール敷きたいと頑張っている。

(穂波町社協 武田)



大牟田市における 校区社協の位置づけについて

大牟田市社協が昭和四十七年に法人として発足して以来、一貫して、住民生活に直結した活動をすすめるために校区社協の育成強化を一つの重点目標としてとりくんできました。

ところで大牟田市には、永い歴史をもつ全戸加入の町内公民館が唯一の住民組織として、校区公民館連絡協議会、大牟田市公民館連絡協議会を組織して活動しています。したがって校区社協の育成強化は、この既存の住民組織と連携しながらすすめている現状です。

しかし、大牟田市公民館連絡協議会は市社会教育課の指導のもとに、校区公民館連絡協議会に各種団体を包含した校区住民組織を結成すべく活動をすすめています。

勿論、社協としては、校区に住民組織ができることはよろこばしいことではありますが、校区段階では校区社協の

育成強化をはかる市社協と西方からの指導により、次のような状態が発生しています。

- 一、校区社協の中に町内公民館、各種団体を包含して活動している校区
- 二、校区公民館連絡協議会の中に校区社協を福祉部として位置づけ、いわゆる狭義の福祉をその活動内容にしている校区

以上のように、社協が位置づけられているのが現状です。そこで専門員諸員におききしますが、社協は校区公民館連絡協議会の福祉部として位置づけるものか、それとも総合支配するものではないが、校区で話しあい研究し、方策をたて、実行に移していくという独自の組織として位置づけするのか、この点をおききします。

(大牟田市社協 奥苑)



法人社協地区別連絡会結成を願う

現在、筑豊ブロック法人社協連絡会(専門員連絡会・会長局長連絡会)と県南八市連絡会(会長局長連絡会)と三池山門郡法人社協連絡会の以上がある。これらのブロック連絡会は、社協活動推進に重要な役割をもっており、

自主的運営はそれなりに県内社協の動きをも支えている。このことからして、法人社協で筑豊ブロック連絡会のように福岡ブロック(三市七町)、県南ブロック(八市九町村)も連絡会の結成が望まれる。(眞社協)

◆福祉的な人間の集り◆

—社協職員の愚言—



はじめに

多くの民間社会福祉事業従事者の脳裡から離れ切れないものは、精神的苦痛と身分的冷遇から生ずる不安定現象である。これ等社会的悪条件に加えて不規則勤務を要する過重労働がある。

仲間同志、酒をくみかわしながら、いつの間にか話題になる愚痴を思い出すままに挙げてみたい。

(1)

まず、社協職員を取り巻く理事・評議員(Ⅱ役員)への気疲れがある。

役員は地域の名士であり、また各種団体の会長ばかりである。社協に関わる行政職員も部課長が多い。まわりはすべて「お偉い人」ばかりで、息をつくひまもない程、常に平身低頭していなければならない。

(2)

社協活動を進めていくための推進役として役員さんたちの研修あるいは会議をもつが、職員が言わんとすることあるいはやろうとすることを十分に理解してくれることが少ない。少しでも理解してもらうためにあるいは事業がスムーズに進むように気をくばる。いくらやっても駄目なこともある。そんな時に起ってくる「あきらめ」と「いらだち」。でもしなければならぬという「意欲」とが重なり、気がめいってしまうのである。

(3)

社協業務兼任の行政職員が事務局にいれば、行政の批判的なものは取りいれられないし、新しい事業への取り組みは遅れる。社協の存在価値がない。また担当課の職員

も社協活動を理解しようとはせず、単に委託業務をさせるために社協が存するとかかり思って疑わない。そんな職員との対話の中にもいつとはなく気をつかうことが多い。

(4)

いざ、地域福祉を進めようとしても委託事務に追われたり、団体事務が飛び込んできたりで天手古舞。社協職員は事務屋である。それでいて市町村社協活動は「不活発だ」「不必要だ」などの言葉をよく耳にする。

「お偉い人というのは物事の実態を知らずに無責任なことを言うものだ」てなごで気をまきらわす。張り切ってはいても、どうしようもないのが現実である。

(5)

地域に出れば行政職員とまちがわれる。住民を動かすために、行政職員であった方がいい時もあれば、やはり民間団体職員であった方がいい時もある。こんな複雑な心境で住民に接しなければならぬところに不安を感じざるをえない。

(6)

また、身分的には団体職員であり、自治体の補助金に頼らざるをえない。削りに削られた補助金で、福祉事業を進めなければならぬのだからやれるはずがない(Ⅱでも実際やってくるから不思議だ)。挙句のほうは、社協職員が犠牲になる。やめればいいのだが、この仕事やっつけていけばいい程しなければならぬ仕事なのだという気持ちがわき、やめられない。

(7)

本当に社協職員は労働者のかな。聖職観を持つのも限りがある。職員は生活して

病気お見舞い

甘木の才田局長(専門員連絡会副会長)は、今年の八月より病気で治療中です。仲間の皆さんで一報お願いします。

(自宅) 甘木市恵比須町

いる人間だ。働いて生きていくのだ。そんな切実観をもっと持たたい。

(8)

このような状況にある社協あるいはその職員をうまくつかっている社会のしくみに対する「いらだち」を住民のための福祉をすすめるという美名で、いつの間にか消されてきた。「何故、それまでして」また「いつの時代にも」社会をよくしようとするものは、冷遇され続けなければいけないのか。

(9)

以上のような例は挙げれば限りがない。開拓性や大衆性など民間性の發揮が、社会性・人間性の喪失の中でゆがめられ、あるいは悪循環ばかりしている。このような社協は、行政にとっても、住民にとっても、遊離していくのは当然であろう。

おわりに

社協職員となって、社協活動を通して、人と人との結びつきの難しさを教えられ、人が作っている社会の無責任さを感じる。真剣に個人が生きていく道(Ⅱ福祉)にある障害物と正面きって斗っていく人間の集る(Ⅱ小集団)機会を日常生活の中で主体的にもっていくと共に、大きくする努力をしていきたい。

(飯塚市社協 熊本)

図 書 案 内

全国社会福祉協議会出版部から

(県協社に一部在庫・申し込みは県協社へ)

TEL 七六一〇七四七

全国社会福祉協議会編 住民福祉のための社会福祉協議会活動

B6判・266頁・定価400円・平80円

全国各地には解決をせまられた福祉課題が山積している。「コミュニティ構想」などが叫ばれる所以である。住民参加の地域活動を推進してきた社協活動のあり方、活動のすずめかたを平易に解説したもの。社協定款例、関係年表つき。

原田正二著 地域組織活動と広報

B6判・304頁・定価720円・平110円

地域組織活動をすすめるにあたって、広報活動は不可欠のものである。しかし、その認識は深くないか。厚生省広報専門官であった著者が、社会福祉、保健衛生の広報実践の経験にもとづいて、広報活動の基礎、技術についてきめこまかな配慮を加え、実践家に役立つように編んだもの。

老人福祉シリーズ 全5集セット 英訳版入・定価750円・平110円

幸せな日々のために

家族や老人クラブの話しあいで大いに役立つ「おとしより読本」です。各集ごとの購入もできます。いずれも B6判・96頁・定価150円・平55円

- ①老人と家庭 村田松男著 写すつくりはみんなの生活から
- ②老人と食生活 佐藤恒信著 まちがった食事は病める原因
- ③老人と健康 佐藤恒信著 病気の予防よりまず健康を考えたよう
- ④老人と仕事 下斗米健著 まがいは健康ある仕事のため
- ⑤老人と地域社会 原田正二著 みんなは健康から生活していか

ボランティア研究会編 選書6 日本のボランティア

一日6判・216頁・定価720円・平80円
住みよい、豊かな社会をめざして、日本の土壌にむくボランティア活動。その実態をさぐり、調査資料を駆使し、ボランティアグループの歴史の流れを通して活動のすずめかたを考へる。個人的な活動から集団化の方向へ、活動から運動へと多様に展開する日本のボランティアをさぐる格好の書。

月刊福祉 月刊雑誌

「50余年の歴史をもつ伝統の雑誌」「70年代の福祉を考へる雑誌」「ひろく市民参加を呼びかける雑誌」——このように本誌は福祉問題のめまくりの月刊誌。公害問題から人権問題まで緊要のかけにかけられた福祉の現実に目を向け、あなたとともに考へる月刊雑誌。

1部 180円 平16円・1年2,160円 平共
振替東京 40609

厚生省社会局監査指導課編

'74社会保障の手引 A5判・450頁 定価800円・平110円

生活保護手帳の「秘録編」。生活保護法を除く老人、児童、心身障害者、母子福祉、低所得、社会福祉施設、社会保険、年金、労働、社会福祉関係税制など広範囲にわたるの諸施策を網羅。福祉関係者をはじめ、誰れにも直接役立つよう平易で、かつ簡潔に説明されている。



予対通報

(五十年年度予算要求)

- ①専門員の増員(人口八千人以上の市町村に五年計画の二年次分を設け二百人)
- ②専門員処遇改善(六万四千円→九万二千円(年))
- ③心配ごと相談所運営費の改善(五万八千円→八万円(年)×三〇五ヶ所)
- ④家庭奉仕員の増員と処遇等の改善

- ①増員八四六〇人→一〇三九四人
- ②月手当 五万五千円→七万六千九百円
- ③訪問旅費(月額)〇→二千円
- ④研究旅費(年額)〇→千六百元

※(詳細は会長会議・事務局局長会議にて配布)
◇全社協予対通報
(四十九年十月十八日付より抜粋)

※編集後記※

- ◎専門員は、年一回の原稿さえも書けない程、忙しい毎日をすごしているのでしょうか。
- ◎専門員は何も書くことがないのでしょいか。
- ◎専門員は書くことがたくさんあります。書くのに困っているのでしょうか。

- ◎専門員仲間、出しているとうと決めたことです。時間を少しさいて、原稿をお寄せ下さい。
- ◎今回は、専門員の自己主張が中心になってしまいました。
- ◎活動事例を互いに知らせあうばかりでなく、専門員の主張をこの新聞に出しましょう。
- ◎第一号は、県外専門員に好評と、今回から、発行部数を少し増やします。
- ◎新聞を通して、他市町村専門員との交流を深めましょう。
- ◎第二号は、来年早々に出版します。すぐ原稿をお寄せ下さい。

